

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

2019 年 8 月 19 日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 藤 洋 作 様

所属部局・研究科 農学研究科

職 名・学 年 博士後期課程1年

氏 名 本多 慎之介

助 成 の 種 類	2019 年度 ・ 国際研究集会発表助成	
研 究 集 会 名	第52回生殖研究会年会 52nd Annual Meeting of the Society for the Study of Reproduction	
発 表 形 式	<input type="checkbox"/> 招 待 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 口 頭 ・ <input type="checkbox"/> ポスター ・ <input type="checkbox"/> その他(
発 表 題 目	マウス初期胚におけるPrmt6とH3R2の非対称なメチル化の役割 Role of Prmt6 and asymmetric dimethylation of H3R2 on mouse preimplantation embryos	
開 催 場 所	アメリカ・サンノゼ・マケネリーコンベンションセンター	
渡 航 期 間	2019 年 7 月 18 日 ～ 2019 年 7 月 24 日	
成 果 の 概 要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有(Best International Abstract賞の受賞について)	
会 計 報 告	交付を受けた助成金額	200,000 円
	使用した助成金額	200,000 円
	返納すべき助成金額	0 円
	助 成 金 の 使 途 内 訳	航空券 95,980円(研究費から50,000円の補助)
		他交通費 28,800円、学会登録費 51,264円
		ESTA申請費 1,534円、通信費 3,010円
宿泊費 55,000円、食費 14,412円		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)	

成果の概要／本多慎之介

今回私が参加した本国際学会（Society for the Study of Reproduction）は、創始 50 年を超える歴史ある国際学会であり、世界最大の規模および人数で開催されています。私は 2 年前、本学会にポスター発表として参加しましたが、世界最高レベルの研究をしている研究者の口頭発表の聞き、いつかこのような舞台上で発表したいと思っていました。2 年越しの今年、同じ学会で口頭発表によって自分の研究を多くの研究者に共有できたことは、今後の研究へのモチベーション向上に加えて、将来の研究活動の足掛かりとしてとても意義深いことだったと思っています。

私の研究分野は、「マウス受精卵のエピジェネティクス」です。エピジェネティクスとはゲノム DNA の塩基配列によらない遺伝子発現の制御であり、DNA のメチル化修飾や DNA が巻き付いているヒストンタンパク質の修飾といったものがあります。本学会では分野は多少異なるものの、自分のこれからの研究に役立つような仮説や材料、考え方を持った発表を聞く機会を得ることができました。受精卵のごく初期におけるメスとオスの分化を研究するにあたって、孵化の温度によって雌雄が決定することが知られているカメを用いて研究しているグループが存在し、スマートな問題解決の切り口にとても驚きました。また、マウス受精卵の中の亜鉛イオンがエピジェネティックな修飾の変化に寄与している、という研究を報告したグループもあり、今まで研究されてこなかった無機イオンが初期胚発生に寄与している可能性を示唆したとても面白い仮説だと感じました。ほかにもたくさんの興味を引く発表がありましたが、これらの最先端の研究を取り込むことができれば、我々のグループの研究活動はより高度なものになるのではないかと考えています。

私は過去に 2 回の国際学会を経験していますが、どちらもポスター発表であったため、本国際学会における発表が初めての口頭発表でした。事前に十分に練習を行い、プレゼンテーションも質の高いものを作れたと自負していますが、40~50 人の同分野の国際的な研究者を前に英語で発表を行うことに緊張してしまい、セリフが飛んでしまうこともありました。しかし、発表途中において、多くの方が自分の発表を注視していたことを勘案すると、内容はしっかり伝わっていたと思われれます。次回以降、海外で学会発表を行う機会を得られたとしても、本学会での発表の経験を生かしてより堂々と、よりわかりやすい発表を行えると確信しています。また、発表者がどのような手順で発表に至るのかを学べたことも、良い経験になりました。作成したプレゼンテーションがどのような経路で主催側に送られるのか、発表直前に何をしなければならぬのか、質問に備えてどのような準備をしなければならぬのかなど、経験してみなければわからないようなことが学べたことも今後の研究活動の糧になったのではないかと考えています。

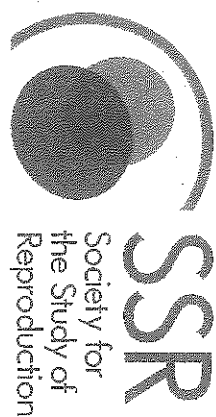
演壇の上で発表を行った後、他の参加者から多くの質問をいただきました。これらの質問は、異なる角度からの鋭い質問や実験の再現性についての質問、将来的な実験計画につ

いての質問など、自分の研究をブラッシュアップする上で非常に有用なものばかりでした。また、発表以外の場面でも国内外の様々な研究者と交流することによって、「遺伝子組み換え動物作成の現状について」や「最新の次世代シーケンサーの性能について」など、今後の研究に役立つ情報を仕入れることができました。他国の研究者とコミュニケーションをとることによって、国内学会に参加するだけでは得られないような助言、情報を得ることができたことは、本学会に参加したことによる大きな成果だと考えています。

また、今回私の発表の成果が認められ、本学会の Best International Abstract 賞に選出されました（添付資料「Best International Abstract 賞の受賞について」）。この賞はアメリカ、カナダ以外の国から参加した口頭発表者のうち、優秀な研究を行っていると思われる研究者 10 名に贈られる賞であり、この賞に選出されたことは、私の研究が世界的に見て意義のあるものだと認められたということだと考えられます。自分の研究が公の観点から新規性、科学的重要性について高く評価されたことは、私にとって大きな自信となりました。

以上のように、本国際学会で口頭発表を行えたことは、これからの研究活動を進めるうえで大きな助けになったと考えています。このような機会を得るにあたって、国際集会発表助成をいただいた貴財団に深い感謝を示します。

添付資料 : Best International Abstract 賞の受賞 = 7u2



The Society for the Study of Reproduction

Best International Abstract

presented to

Shimosuke Honda

for abstract titled

"Role of Prmt6 and Asymmetric Dimethylation Of H3R2 On Mouse Preimplantation Embryos"

2019 SSR 52nd Annual Meeting
San Jose, California

Janice P. Evans
Janice P. Evans
President, SSR

